



「ブナ林の秋」  
写真1



「荒波」  
写真2

### 八峰白神ジオポイントと旅の風景

去る2月16日から21日まで標記の絵画展が東京都の銀座にある美術家連盟画廊で開催されました。48点の作品中、八峰白神ジオパークエリアの中から選ばれた絵が19点含まれています。当画廊担当者によると、こんなに充実した個展はめったにありません、と感心していたと聞きました。

画廊は6階にあり、エレベーターを出るとすぐ右側が会場の入り口で、その場から展示されている絵が目飛び込んできます（写真1）。その絵は八峰町の留山が描かれており、初秋のブナ林が紅葉し始めた頃の風景が描かれていて、小川にはブルーの水をそっと流しているのです。あるご婦人が「まるで森の中にすい込まれていくよう！」とつぶやいていました。

実は、この絵は大高氏のアトリエで拝見していたのですが、こんなに迫力のある絵とは思っていませんでした。それには訳があるらしく、狭いアトリエで見ると絵筆が乱雑に走った様子ばかり目について、全体の構成を観る心がなかつたものなのでしょう。その時ふと頭をよぎった詩がありました。

畳十畳ほどの広さの中に  
まるで別格の扱いを受けていた  
にもかかわらず私は  
その大きさに圧倒されるでもなく  
ただ呆然と立ち尽くしてしまつた  
何と「雑」な描き方であろう  
板の大きさの中に納めきれなかつた絵筆の  
その乱雑さに失望感が渦を巻いて  
私は睡蓮の池の中に溶けてしまった。

（詩集 沈黙のブルー― 山口敦子

「モノの睡蓮より」一部抜粋）※1

この「留山」の絵は八峰町の宝として展示、保管をしていきたいものです。



お客様と対談する大高氏



画廊のイベントを知らせる看板

やがてご来場の方々が多くなつてきて私は受け付けの仕事やらジオパークの解説やらで絵を鑑賞するどころではなくなつてきました。それとはなしにお客さんたちの動きを見ていると長く立ち止まって見ている絵は数枚に限られている事に気づきました。それらの絵には決まって「水」が描かれています。中でもジオポイント35付近を描いた海の絵（写真2）はその筆頭に当たりましよう。ジュリコーの「嵐」※2に描かれた海を見た時の感動がよみがえってくるのです。

「水を描くのは難しい」と大高氏は言います。そして苦勞を重ねて表現された水を観た人たちはその絵に惹きつけられます。これは普段人々が意識していないほど奥深い心の底に横たわっている何か揺り動かされるからではないだろうか。

八峰白神ジオパークエリアは水と大地が接している場所に展開しています。そういう見方からすれば、当ジオパークは貴重な存在であり、人々が忘れかけた「心」をゆり動かす良い場所であるにちがいません。

※1 山口敦子・2007 詩集 沈黙のブルー― 土曜美術社出版販売 52頁  
※2 ルーブルとパリの美術V ジュリコー―嵐（または漂流者） 70頁

八峰白神ジオパーク推進協議会

会長 工藤 英美

〒01822612

秋田県山本郡八峰町八森

字ノケソリ116 旧岩館小学校内

TEL 0185-78-2427